

# 九十九日景

六本松 箱崎 伊都

▷5◁

卒業生もよく来店する。一緒に通っていた男女が結婚して子供を連れて来たり、親子二代で通う学生もいる。卒業生から毎年送られてくる年賀状は、藤本さんの宝物だ。今年も遠くはイスラエルや米国から、40通以上が届いた。

「昔の学生は、故郷から受験に来た後輩

## 格安食堂、心も込めて33年



炊きたてのご飯をどんぶりによそう「ほろ酔」の藤本ミヨコさん

「いらっしゃい。もう大学始まつたど?」

九大六本松キャンパス近くにある食堂「ほろ酔」(福岡市中央区谷)。藤本ミヨコさん

(72)は仕事始めの5日、席に着く学生に朗らかに声をかけた。カウンターだけ8席の店内と藤本さんの笑顔は、開業した33年前から変わらない。

素臣さんの体調が悪化した十数年前から、一人で店を切り盛りしてきた。一人暮らしの学生のために、いだけじゃなく、心を

の世話を焼いたり、上下関係を大切にした。店でもうるさいぐら

い。「時代の流れはどうにもならん」。キャラクターがなくなることが一番寂しい。いつまで続けられるか分からんけ

ど、みんなが応援してくれるけんね」。移転

までの3ヶ月。迷いつつ、藤本さんは今年も学生のために温かいご飯を作り続ける。

「ほろ酔」を開いた。店内は、ゼミや部活動を終えて空腹の学生で、昼も夜もあふれ

を取る。それでも定食は410~430円、

「ほろ酔」を業とする。ご飯はどんぶりによそい、みそ汁は丁寧にイリコでだし

た。生で昼も夜もあふれてくる年賀状は、藤本

さんの宝物だ。今年も遠くはイスラエルや米国から、40通以上が届いた。

「昔の学生は、故郷から受験に来た後輩

の年賀状を見ると心は揺れる。「ほろ酔で過

ぎした日々が懐かしいです。また行きます」「いつまでも元気で店

を続けてください」――作り続ける。

【柳原美砂子】

藤本さんは76年、夫の素臣さん(71)と学生街の六本松に商機を求

連休を除いて毎日営業する。一緒に通っていた男女が結婚して子供を連れて来たり、親子二代で通う学生もいる。卒業生から毎年送られてくる年賀状は、藤本さんの宝物だ。今年も遠くはイスラエルや米国から、40通以上が届いた。

「昔の学生は、故郷から受験に来た後輩

の年賀状を見ると心は揺れる。「ほろ酔で過

ぎした日々が懐かしいです。また行きます」「いつまでも元気で店

を続けてください」――作り続ける。

藤本さんは今年も学生のために温かいご飯を作り続ける。